

**宮内鴨田遺跡
長呂遺跡
上狐興野遺跡**

県営ほ場整備事業中之島中部地区に係る発掘調査報告書

2007

新潟県長岡市教育委員会

宮内鴨田遺跡
長呂遺跡
上狐興野遺跡

県営ほ場整備事業中之島中部地区に係る発掘調査報告書

2007

新潟県長岡市教育委員会

例　言

- 1 本報告書は新潟県長岡市中之島宮内にある宮内鶴田遺跡、新潟県長岡市長呂にある長呂遺跡、新潟県長岡市上狐興野にある上狐興野遺跡の3箇所の発掘調査記録である。
- 2 発掘調査は県営は場整備事業中之島中部地区に伴い新潟県三条地域振興局が長岡市に委託したもので、長岡市教育委員会が平成18年8月28日～9月14日に行った。
- 3 報告書作成に係る作業は平成18年11月27日～平成19年2月21日に行った。
- 4 出土遺物及び測量図面・写真・観察データは、一括して長岡市教育委員会が保管・管理している。
- 5 遺物の注記は宮内鶴田遺跡は「カモタ」、長呂遺跡は「ナガロ」、上狐興野遺跡は「キツネ」とし、出土地点、出土年月日を記した。
- 6 調査体制は以下のとおりである。

調査主体：長岡市教育委員会（～平成18年12月31日 教育長 笠輪 春彦）

（平成19年1月1日～ 教育長 加藤 孝博）

調査担当者：小林 徳（科学博物館主任）

調査員：田中 清（科学博物館主任）

小林 徳（科学博物館主任）

事務局：長岡市教育委員会科学博物館（館長 山屋 茂人）

- 7 本書の執筆は田中清（科学博物館主任）と整理作業員の補助を受け、小林徳（科学博物館主任）が行った。

- 8 図版の縮尺や方位については、各図版に示した。

- 9 発掘調査から本書の作成にいたるまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜りました。記して厚く御礼申し上げます。（敬称略）。

国土交通省信濃川河川事務所、新潟県三条地域振興局

目 次

第1章 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 調査期間	1
第2章 遺跡周辺の地理と歴史	
1 周辺の地形	2
2 周辺の歴史	2
第3章 宮内鶴田遺跡	
1 区画の設定	4
2 基本層序	4
3 造構	4
4 遺物	4
第4章 長呂遺跡	
1 区画の設定	5
2 基本層序	5
3 造構	5
4 遺物	5
第5章 上狐興野遺跡	
1 区画の設定	8
2 基本層序	8
3 造構	8
4 遺物	8
第6章 まとめ	
1 宮内鶴田遺跡	10
2 長呂遺跡	10
3 上狐興野遺跡	11
4 まとめ	11

《遺物観察表》

挿図目次

第1図 調査地周辺(1/50,000)

図版目次

- 図1 宮内鶴田遺跡
- 図2 長呂遺跡
- 図3 上狐興野遺跡
- 図4 出土遺物
- 図5 出土遺物

第2図 調査地区図(1/5,000)

写真図版目次

- 写真図版1 調査地周辺 調査地上空写真
- 写真図版2 調査地周辺 宮内鶴田遺跡
- 写真図版3 宮内鶴田遺跡 長呂遺跡
- 写真図版4 長呂遺跡 上狐興野遺跡
- 写真図版5 出土遺物
- 写真図版6 出土遺物

第1章 調査の経緯

1 調査に至る経緯

平成 10 年より県営は場整備事業中之島中部地区が行われるのにあたり、事業者である新潟県三条農地事務所(現新潟県三条地域振興局)と地元である中之島町教育委員会は協議を行い、施行前に試掘調査を行い遺跡の不時発見を極力避けるように体制を確立した。

平成 18 年度の施行予定地に中世の館跡である「宮内館跡」があることから、三条農地事務所は平成 17 年 2 月 1 日付けて三農地第 756 号にて宮内館跡に対する埋蔵文化財発掘通知を中之島町教育委員会を通じて新潟県教育委員会に提出し、3 月 24 日に遺跡の範囲確認のための調査が必要との回答が得られた。

平成 17 年 4 月 1 日に中之島町は越路町、三島町、山古志村、小国町とともに長岡市に合併し、調査も長岡市教育委員会科学博物館に引き継がれ、同年 5 月に県三条地域振興局との協議を行い、10 月 17 日～25 日に深く掘削する水路面を中心に確認調査を行った。結果、宮内館跡の痕跡は確認できなかつたが、9 世紀後半と見られる包蔵地が 3 箇所で検出された(長岡市教育委員会 2006)。これらの遺跡は「宮内鶴田遺跡」「長呂遺跡」「上狐興野遺跡」として平成 18 年 2 月 21 日に登録した。この 3 箇所の遺跡に対応するため調査と工法変更の両面から協議・検討をした結果、平成 18 年 9 月末までに本調査を行う事となった。三条地域振興局は平成 18 年 4 月 17 日に埋蔵文化財発掘通知を長岡市教育委員会を通じて新潟県教育委員会に提出し、4 月 25 日に新潟県教育委員会より発掘調査が必要な旨の回答もあり、三条地域振興局と長岡市は 7 月 14 日に調査委託契約を結び、長岡市教育委員会科学博物館が調査を行うこととなった。

2 調査期間

教育委員会では契約直後より調査の準備を行い、8 月 22 日より現場事務所の設置準備や機材の搬入を行い、発掘調査を 8 月 28 日から 9 月 21 日まで実働日数 16 日間に行つた。

8 月 28 日 宮内鶴田遺跡の表土掘削、排水路掘削

29 日 宮内鶴田遺跡の包含層掘削、遺構検出調査

9 月 1 日 長呂遺跡の表土掘削、排水路掘削、包含層掘削

宮内鶴田遺跡の遺構調査を開始

5 日 長呂遺跡の遺構調査を開始

7 日 宮内鶴田遺跡、長呂遺跡の地形測量

長呂遺跡の調査終了、埋め戻し

宮内鶴田遺跡の調査終了、埋め戻し

8 日 上狐興野遺跡の表土掘削、排水路掘削

11 日 上狐興野遺跡の遺構調査を開始

14 日 上狐興野遺跡の調査終了

19 日 上狐興野遺跡の地形測量、埋め戻し

21 日 航空写真的撮影

また、整理作業は他の調査との関係により遅れたが、11 月 27 日より遺物の水洗いを行い、その後注記・遺物実測・拓本・写真撮影などの作業を経て、報告書の作成を行つた。

第2章 遺跡周辺の地理と歴史

1 周辺の地形

長岡市は平成17年4月1日、平成18年1月1日の2度の合併により市中央を流れる信濃川を挟むように、東は魚沼丘陵を経て桶尾盆地から標高2,000m近い守門岳まで、西は南北に連なる東頭城丘陵の先の寺泊海岸まで広がり、南北にも大きく広がることになった。

調査地周辺は長岡市の北方に位置し、東に刈谷田川、西に猿橋川・信濃川によって形成された自然堤防に囲まれた沖積地に立地している。気候は冬季に降水量が多く、また湿度が高く、晴天の日が少ないので、いわゆる北陸型の特徴を示している。

2 周辺の歴史

調査地周辺は川に囲まれた地形のため、江戸時代以降の記録を見れば4年に1度洪水に見舞われていたといわれるほど水害が多発した場所であった(中之島町 1988)。江戸時代以降になると新田開発により居住地が増えたが、それまでの集落は自然堤防上や微高地に形成され、その他の土地は水田などとして活用されてきた。周辺では住居址などを検出した明確な集落としての遺跡は少ないと、包蔵地としての遺跡がこのような新田開発以前の集落に隣接して存在している。1975年に北陸高速道路建設工事に伴い新潟県教育委員会により調査された杉之森遺跡(10)では、室町時代中頃～後半にかけての遺物や井戸等の遺構を検出し、出雲田荘に属する有力者の集落とも言われている(新潟県教育委員会 1976)。また、調査時にすぐそばの水田(通称:根岸)にて弥生時代終末～古墳時代の土器が多量に見つかっており、この時代の集落の存在が想定される。このような弥生時代終末の遺物は高畠遺跡(9)でも出土している(中之島町教育委員会 1999)。また、出土地ははっきりしないものの中之島中条から出土したと伝えられている土器も存在する(小林 2000)。

観音寺遺跡(5)はその小字名より寺院跡と考えられていたが、1994年の調査においては寺院との直接の確認は得られなかつたものの、9世紀後半の集落跡と考えられ、丸窯などの貴重な遺物が出土している(中之島町教育委員会 1995)。

他にも、中世の遺跡としてカジヤシキ遺跡(6)、横山椎現堂遺跡(8)が周知されているが、発掘調査は行われおらず詳細はわかつていない。



第1図 調査地周辺(1/50,000)



第2図 調査地区図(1/5,000)

第3章 宮内鴨田遺跡

1 区画の設定

調査区は道路を挟んで東西に分かれていることから、東側をA区、西側をB区とし、A区B区共に東から2mごとに任意に調査区を設定し、A区では1から54まで、B区では1から18までのグリッドをそれぞれ設定した。また、調査地は現況が水田であり涌水が発生することから、水抜きのための溝を片側に掘り、調査範囲をなるべく乾燥させるようにした。なお、A区は調査範囲が長いため図版においては遺構が検出した場所のみを記載した。

2 基本層序

表土層の直下に鉄分を含んだ水に影響を受けたと考えられる赤灰色砂層が10cmから20cmほど存在し、その後灰色の砂層が薄く堆積する。これらの砂層は江戸時代末期の戊辰戦争の最中にこの付近で堤防の決壊があったとも言われており、その時の砂の堆積も含むと考えられる。その下より、粘土層が堆積し、包含層と考えられる暗灰色粘土には細かな炭化物を少量含んでいた。遺構が包含層下の青灰色粘土層に形成されている。

3 遺構(図版1)

A区において3条の溝を検出した。SD1は幅25cmほどで北北東-南南西に掘り込まれている。SD2は幅130cmほど、SD3は幅65cmほどで、それぞれ北-南、北東-南西を軸として掘り込まれている。いずれも遺物が検出されず、性格や時代を特定することはできなかった。ただし、SD3の東側、A区28グリッドから37グリッドには旧河道と見られる痕跡も検出されていることから、この河道と関係のある溝とも考えられる。

B区においては土坑1基が検出された。SK1は長径80cmで、短径方向は排水溝のため測ることができなかったが、小判形になる土坑と見られる。

4 遺物(図版4、写真図版5)

A区で出土した遺物は図版4-1の須恵器が9グリッドにて出土した。大甕の胴部片と見られ、色調は青灰色。平行タタキ具を使用して縦位に叩き締めた後、カキ目を施している。内面は同心円当て具を使用している。胎土は白色粒子色(0.5mm)を少量含む。焼成は堅緻。

他にもA区では土師器の口縁部片・土鍤などが検出されたが、数点のみの出土で、B区でもSK1においても土師器片が1点出土したが、図示できるほどの遺物はなかった。

第4章 長呂遺跡

1 区画の設定

東より2mごとにグリッドを設定した。また、調査区の南側に排水溝を掘り、1グリッドを大きく掘削し、排水が溜るようにした。なお、確認調査段階において、西にいくと厚く荒い砂層が堆積しており遺跡が存在しないことが確認されていた。よって、8グリッドより西にも調査区を設定していたが、表土掘削段階において上記の砂層が検出されたため、作業の安全上も考慮し掘削を行わなかった。

2 基本層序

宮内鶴田遺跡と同様に表土層下より厚い砂層が堆積していた。より川に近いためか、砂が宮内鶴田遺跡よりも荒いものであった。包含層は暗灰色粘土層でしまりは強く、炭化物を少量含んでいる。包含層の下の粘性の強い青灰色粘土層に遺構が形成されている。

3 遺構(図版2)

P1は2つのピットが連結したような形をしており、間に暗灰色粘土層を挟んでいる。大きさは短径が約25cmで長径は約55cm、深さは35cm。P2には木材は残っていないか柱跡が見られ、掘り方の大きさ約35cm、深さは20cm。柱跡は大きさ25cmで、深さは35cm。住居に關係すると見られるが、調査範囲が狭いため、ほかに柱跡を見つけることはできなかった。

SK1は浅い長方形と見られる土坑で、短径は約60cmで長径は調査区外まで出ているため確認できなかった。SK2は不定形の浅く掘りくぼめられた土坑で、やはり調査区外にまで出ているため判然とはしないが、45cmほどの大きさとなると見られる。

4 遺物(図版4・5、写真図版5・6)

P1からは須恵器片1点と土師器9点が出土した。2は小型壺の口縁部片で口径は13cm。色調は外面は赤褐色で内面は明褐色～褐色を呈する。内外面ともに丁寧なナデ調整が見られ、頸部より外反してやや内側へ向くような形で口唇部がつまみ上げられている。胎土は石英(0.5mm)多量、白色粒子(0.5mm)少量、長石(0.5mm)微量を含む。焼成は堅敏。3は壺の底部片で、底径は6cm。色調は外面は赤褐色で内面は明赤褐色を呈す。内外面ナデ調整を施し、底部は回転糸切り痕を残す。胎土は白色粒子(0.5mm)多量・石英(0.5～1.5mm)中量。焼成は普通。4は須恵器の壺胴部片。色調は外面が暗灰色で内面は灰色を呈す。外面には格子目タタキを施し、内面には同心円の当て具が使用されている。胎土は黒色の吹き出しを多く含み、長石(1～2mm)微量を含む。硬く焼き締められている。

P2からは須恵器片1点と土師器片4点が出土した。5は須恵器の坏で、口径12.5cm。色調は内外面共に青灰色で口縁部付近は暗灰色を呈する。外面はナデで調整され下部にはヘラ削りを施す。胎土は白色粒子(0.5mm)多量・石英(0.5mm)少量。焼成は堅敏。

SK1からは目立った遺物の出土はなかったが、SK2から須恵器片3点と土師器片1点が出土した。6は須恵器の坏で、全体の約1/3が欠けている。口径12.8cm、底径7cm、器高3.2cm。色調は内外面共に灰褐色で、外面口縁部が1cmほど灰白色となっている。内外面共にナデにより調整され、底部にはヘラ切り痕

が見られる。胎土は黒色の吹き出しを含み、白色粒子(0.5mm)中量・暗赤褐色粒子(1 mm)ごく微量。焼成は普通。ほかの遺物については小破片のため図示できなかつたが、同一個体と見られる有台椀の須恵器が2点出土している。

遺構外からは、1グリッドで9点の土師器片が出土した。7は土師器壺の胴部。色調は外面は暗赤褐色で内面は明赤褐色。平行タタキと同心円当て具を使用し、胎土に長石(0.5~2 mm)少量・石英(0.5 mm)ごく微量、赤色粒子(0.5 mm)微量を含む。焼成は軟質。2グリッドでは須恵器片3点と土師器片6点が、3グリッドでは須恵器片2点と土師器片35点が出土したが、いずれも図示に至るものはなかつた。

4グリッドでは須恵器片6点と土師器片48点が出土した。8は長頸瓶の底部片で、底部径9.2cm。色調は内外面共に灰白色から灰色を呈す。ナデにより調整され、内面底部に一部自然釉が付着している。胎土は黒色の吹き出しを多く含み、白色粒子(0.5 mm)中量・小石(3 mm)ごく微量。焼成は堅微。9は須恵器の壺の底部片。底部径7.2cm。色調は外面共に灰色。胎土は白色粒子(0.5 mm)中量・長石(0.5 mm)少量を含む。焼成はやや軟質。10は須恵器の壺の口縁部片。口径12cm。色調は内外面共に暗灰色。内外面共にナデ調整を行つており、口縁部直下が調整により小さく窪んでいる。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は堅微。11は土師器の壺の底部片。底部径4cm。色調は外面が暗赤褐色で内面は赤褐色。ナデにより調整されている。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量・長石(0.5~1 mm)中量・石英(0.5 mm)微量を含む。焼成は普通。12と13は同一個体と見られる土師器の壺胴部で、平行タタキと同じような当て具を使用している。色調は外面は暗褐色で内面は褐色を呈する。胎土は長石(0.5~1 mm)多量・石英(0.5 mm)微量・白色粒子(0.5 mm)微量を含む。焼成は堅微。14~16も土師器の壺胴部だが、胎土などから同一の個体ではないと見られる。14は外面の一端に砂粒が集中的に付着しており、焼成前に付いたものと見られる。

5グリッドでは須恵器片5点と土師器片45点が出土した。17は長頸瓶の底部片で、底径は10cm。色調は外面が灰色で内面が暗灰色で、内面は使用に伴うものか劣化によるものかはわからないが、細かく剥離し下地が見えている。また、自然釉と見られるものも散見できる。胎土は黒色の吹き出しと白色粒子(0.5 mm)中量が含まれる。焼成は堅微。18は土師器の壺で、口径12.3cm、底径は5.5cmで器高は3.4cm。色調は外面が暗赤褐色で内面は赤褐色をなす。内外面共にナデにより調整されている。胎土は長石(0.5~2 mm)・白色粒子(0.5 mm)・赤色粒子(0.5 mm)微量を含む。焼成は普通。19は土師器の壺の底部から胴部にかけての破片。色調は外面が暗灰黄色。底径は6.8cm。内面が黑色処理されている。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量・石英(0.5 mm)微量。焼成は堅微。20は土師器の壺の底部片。底径は5.8cm。色調は外面が赤褐色で内面は明褐色。胎土は赤色粒子(0.5~1 mm)中量・白色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は軟質。21は土師器の壺の胴部片。色調は内外面共に褐色。平行タタキと同じような当て具を使用している。胎土は石英(0.5 mm)多量を含む。焼成は堅微。22は土師器の壺の底部片。底径は4.8cm。底部に小さな段を持つ。底部に糸切り痕を残す。色調は外面が赤褐色で内面は暗褐色。胎土は長石(0.5 mm)中量・石英(0.5 mm)中量を含む。

6グリッドでは須恵器片が3点と土師器片が93点と長昌遺跡で最も多くの遺物が出土した。23は須恵器の壺の完形品。口径12.6cm、底径6.8cm、器高3.2cm。色調は灰色。口縁部には帯状の暗灰色部分が半周ほどめぐっている。内外面共にナデにより調整され、底部は回転ヘラ切り痕が見られる。胎土は黒色の吹き出しを含み、白色粒子(0.5 mm)少量・小石(2~3 mm)ごく微量を含む。焼成は普通。24は土師器の長胴壺で、口縁部から胴部にかけての破片。口径20.8cm。色調は暗赤褐色。颈部から外に屈曲し、口唇部が厚くなり面を持つ。胴部は丁寧なナデにより調整されている。胎土は石英(0.5~1 mm)中量・白色粒子(0.5 mm)少量を含む。調査地が湿地であったためか、焼成が悪かったのか判然としないが、やや脆い作りとなつ

ていた。25は土師器壺の胴部片。色調は橙色。外面は平行タタキ、内面は同心円当て具が見られる。胎土は石英(0.5~1 mm)多量、長石(0.5 mm)微量を含む。焼成は軟質。26は土師器壺の胴部片で、外面は並行タタキを縱横に施し、内面には同心円当て具を使用している。色調はにぶい橙色。胎土は白色粒子(0.5~1 mm)少量、石英(0.5 mm)中量を含む。焼成は軟質。27は土師器壺の胴部片。色調はにぶい黄橙色。外面は斜位の平行タタキ、内面は同心円当て具。胎土は石英(0.5 mm)多量、長石(0.5 mm)少量を含む。焼成は堅緻。28は土師器壺の頸部直下から胴部片。色調は外面が灰白色で内面が暗褐色。外面は斜位の平行タタキ、内面は同心円当て具。胎土は石英(0.5 mm)中量、長石(0.5 mm)を多量に含む。焼成は堅緻。29は土師器壺の胴部片。ほかのものと比べて薄い造りとなっている。色調は外面が浅黄橙色、内面は黄褐色。平行タタキと平行當て具を使用。胎土は石英(0.5 mm)少量、白色粒子(0.5 mm)微量を含む。焼成は堅緻。30も土師器壺の胴部片。色調は外面が黒褐色、内面は灰黄褐色。平行タタキと平行當て具を使用。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量、石英(0.5 mm)微量を含む。焼成は堅緻。31も土師器壺の胴部片。色調は外面が浅黄橙色で内面が明黄褐色。平行タタキと同心円当て具を使用。胎土は石英(0.5 mm)多量を含む。焼成は普通。32は土師器壺の胴部片。色調は明黄褐色。平行タタキと平行當て具を使用。胎土は石英(0.5 mm)多量・長石(0.5 mm)ごく微量を含む。焼成は堅緻。33は土師器壺の胴部片。色調は外面が褐灰色で内面は褐色。平行タタキを縱横に叩いたものと平行當て具を使用。胎土は石英(0.5 mm)少量・長石(0.5~1 mm)ごく微量を含む。焼成は普通。34は土師器長胴壺の胴部片。色調は外面が黄橙色で内面が黄褐色を呈する。外面はカキ目を施し平行タタキを入れるところもある。内面は丁寧に磨かれて同じくカキ目も見られる。胎土は石英(0.5 mm)多量、長石(0.5 mm)微量、雲母(0.5 mm)ごく微量を含む。焼成は堅緻。35は須恵器の壺の胴部片。色調は外面は暗灰色で内面は灰色を成す。大型で外面は平行タタキで内面は同心円当て具を使用している。胎土は黄色粒子(0.5 mm)を中量含む。焼成は堅緻。36は土師器壺の胴部片。色調は外面が黄橙色で内面が黄褐色を呈する。外面が平行タタキで内面は同心円当て具を使用している。焼成は普通。37は土師器壺の胴部片。色調は外面が灰白色で内面は褐色を成す。縦位の平行タタキと横位の平行當て具を使用している。胎土は石英(0.5 mm)少量、白色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は堅緻。38は土師器壺の胴部片。色調は外面が灰黄褐色で内面ににぶい黄橙色となる。平行タタキと平行當て具を使用。胎土は石英(0.5 mm)中量・長石(1 mm)ごく微量を含む。

7グリッドでは須恵器2点と土師器24点が出土した。39は土師器壺の胴部片。色調は外面が浅黄橙色で内面は褐色を呈する。縦位の平行タタキと横位の平行當て具を使用している。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量・石英(1 mm)少量を含む。焼成は堅緻。40は須恵器壺の胴部片。色調は外面が灰白色で内面が灰色を呈する。外面は格子目タタキで平行當て具を内面に当てる。胎土は白色粒子(0.5 mm)を少量含む。焼成は堅緻。この他に図示はできなかったが、内面を黒色処理している土師器の小片も出土している。

8グリッドは土師器62点が出土した。41は土師器壺の口縁部片。口径は17.6cm。頭部より外反し口唇部に大きな面を持つ。内外両面をナデ調整し、口縁部下に段を持つ。胎土は石英(0.5 mm)中量、赤色粒子(0.5 mm)ごく微量を含む。焼成は堅緻。他にも、このグリッドにおいても内面が黒色処理された土師器片が3点出土している。

この他、調査排土中から数点の遺物が見つかった。排水溝掘削時などに混じったものと見られる。42は土師器壺の胴部片。色調は外面がにぶい黄褐色で内面が黄橙色。外面には平行タタキを持つが、内面に当てる具の痕跡は見られない。胎土は白色粒子(0.5 mm)微量、石英(0.5 mm)中量を含む。焼成は普通。43は珠焼のすり鉢。色調は外面が灰白色をなし、内面は灰色をしている。口縁部方向に水平な沈線が引かれる。胎土には白色粒子(0.5 mm)を少量含む。焼成は堅緻。

第5章 上狐興野遺跡

1 区画の設定

東より 2m ごとにグリッドを設定した。また、調査区の南北側に排水溝を掘り、西端に排水ポンプを設置するため、深く掘り込んだ。

2 基本層序

他の 2 遺跡と同様に表土下に砂層が見られたが、間に粘土層を含んだ 2 層に分かれていた。特に、下層の砂層は他と比べても荒い砂であった。これはより河川に近いため、氾濫などで堆積するにしても比重の重い砂粒が残ったものと見られる。なお、この荒い砂層からは流木と見られる木片も多数検出した。

この荒い砂層の下に灰色粘土層をはさみ包含層である暗灰色粘土層が存在する。この層は炭化物を少量含んでいた。包含層の下は厚い青灰色粘土層が続いている。

3 遺構(図版 3)

2 つの土坑を検出した。SK1 は南側が排水溝により切られたため確認できないが、長径 145 cm の隅丸方形となるとみられる土坑。SK2 も南側が排水溝により切られているが、長径 120 cm の梢円形の土坑。両土坑とも単純 1 層でそれほど深い掘り込みはなかった。

4 遺物(図版 5、写真図版 6)

SK1 より 14 点の土師器と 1 点の粘土塊が出土したが、図示するに至るものはなかった。

1 グリッドでは須恵器 2 点と土師器 20 点を出土した。44 は須恵器壺の口縁部から体部にかけての破片で、口径は 12cm と考えられる。色調は灰白色をなし、受部は上部に上がり、たちあがり部分は内側に傾く。口縁端部は凹みを持つ小さな面を形成し、内側へ傾斜する。調整はナデ調整を施しているが、底部付近はヘラ削りが施されている。胎土は石英(0.5 mm)中量・白色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は普通。45 は土師器の器台脚部の裾部分。底径は 7.6cm。色調は浅黄色で、外面に朱が施される。脚部中央で少し屈折し、外に広がる。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量・長石(0.5 cm)極微量を含む。焼成は堅緻。

2 グリッドでは土師器 50 点が出土した。46 は土師器鉢の口縁部で、口径は 13.2cm。色調は外面がにぶい黄色で内面は黒色処理されている。頸部から大きく外反し口縁に至っている。外面はナデ調整され、内面はヘラ磨きにより丁寧な調整を行っている。胎土は黒色粒子(0.5 mm)微量・長石(0.5 mm)極微量を含む。焼成は堅緻。

3 グリッドでは須恵器片 1 点と土師器片 37 点が出土した。47 は土師器高壺の脚部片。底径 10.4cm。色調は外面が暗黃色で壺部内面は黒色処理がなされる。八の字状に裾が広がる。胎土は白色粒子(0.5 mm)中量・石英(0.5 mm)微量・小石(3 mm)極微量を含む。焼成は軟質。48 は須恵器壺の胴部片。色調は灰色。外面は平行タタキを施した後にカキ目を入れている。内面には同心円当て具跡が見られる。また、自然軸がタタキの目の間にみられる。白色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は堅緻。49 は土師器壺の胴部から底部に近い破片で、外面は赤褐色で内面はにぶい褐色をする。刷毛目調整が施されている。胎土は石英(0.5~1 mm)多量・長石(0.5 mm)少量を含む。焼成は普通。50 は土師器壺の口縁部片。色調は外面が明黄褐色で内面

が黄橙色。口縁部から頭部にかけてヨコナデをし、頸部以下は細かい刷毛目を施す。胎土は石英(0.5~1 mm)多量・石英(0.5 cm)少量・小石(3~5 mm)微量を含む。焼成は堅緻。

4 グリッドでは 51 の中世瓦器系統の 1 点のみが出土した。色調は暗赤褐色で内面の下部に屈曲が見られる。胎土は白色粒子(0.5~1 mm)を少量含む。焼成は堅緻。このグリッドは試掘での調査地点を含むグリッドであり、外からの流入も考えられる。

5 グリッドでは図示できる大きさの資料はなかったが、土師器片 4 点が出土しており、うち 3 点は内面が黒色処理されている土師器片であった。

6 グリッドでは珠洲焼 1 点と土師器片 27 点が出土した。52 は土師器の脚部片。底径 8 cm。色調は赤褐色をなす。小さく八の字状に広がる。胎土は石英(0.5~1 mm)を中量含む。焼成は普通。53 は珠洲焼鉢鉢の口縁部片。色調は外面が暗灰色で、内面が灰色。焼成は堅緻。

7 グリッドでは須恵器 1 点、土師器 44 点と両磁器 1 点が出土している。54 は須恵器壺の口縁部片で、口径 12.4cm。色調は灰色。口縁部付近は帯状の黒色となっている。胎土は白色粒子(0.5 mm)を中量含み、黒色の吹き出しが多数存在する。焼成は堅緻。55 は土師器の頭部片で、色調は灰白色。口縁部はヨコナデがなされ、頭部以下に刷毛目調整が施されている。胎土は石英(0.5 mm)を多量に含む。焼成は普通。

8 グリッドでは遺物が出土せず、9 グリッドでは須恵器片が 1 点、10・11 グリッドでは土師器片がそれぞれ 1 点出土しているが、図示に至るものはない。

12 グリッドでは土師器片 7 点が出土した。56 は土師器壺の底部片。底径は 4cm。色調は外面が灰白色で内面がにぶい橙色。内面に刷毛調整の痕跡が見られる。胎土は石英(1~2 mm)を多量に含む。焼成は普通。

13 グリッドでは土師器片 2 点が出土した。57 は土師器壺の口縁部片。口径 16cm。色調は明褐灰色だが、内面の口縁部付近には煤により黒ずんでいる。屈曲などではなく、朝顔状に広く開いている。胎土は石英(1~2 mm)を多量に含む。焼成は堅緻。

14 グリッドでは土師器片 17 点が、15 グリッドでは須恵器片 1 点と土師器片 33 点が出土しが、図示するほどの大きさのものはなかった。

16 グリッドでは土師器片 52 点と粘土塊 3 点が出土した。58 は土師器壺の口縁部から頭部にかけての破片で、口径 21 cm。頭部より外反し、口縁部を内側に立ち上げる。全体的にナデ調整を施している。胎土は石英(0.5 mm)少量・赤色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は軟質。59 は土師器壺の胴部片。色調は外面は黒色で内面は浅黄色。平行タタキが施され、内面には同心円当て具痕を残す。胎土は石英(0.5 mm)中量・赤色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は普通。60 は土師器壺の胴部片。色調は外面が橙色で内面が明赤褐色。並行タタキを施し、内面の当て具は確認できなかった。胎土は石英(0.5 mm)少量・長石(0.5 mm)微量・赤色粒子(0.5 mm)少量を含む。焼成は普通。

17 グリッドでは土師器片 20 点が出土した。18 グリッドでは土師器片 10 点が出土した。61 は土師器の脚部。色調はにぶい褐色。底部径 8 cm。脚部は緩く開き、裾端部が外反する。胎土は石英(0.5~2 mm)中量・長石(0.5 mm)少量・小石(10 mm)極微量を含む。焼成は普通。

19 グリッド、20 グリッドにおいても土師器片が出土した。

また、排水溝を掘る時点で 24 点の土師器が出土した。62 は土師器壺の口縁部から壺部の破片。口径 14.6cm。色調は外面が赤褐色で内面は黒色処理されている。頭部より緩く外反する口縁をもつ。胎土は白色粒子(0.5 mm)少量・石英(0.5~3 mm)中量を含む。焼成は堅緻。

第6章　まとめ

今回調査した3ヶ所の遺跡は、いずれも県営は場整備事業に伴う水路部分の発掘調査であったため調査範囲が狭く、よって遺跡の性格、たとえば集落跡などと特定することは困難であった。よって、以下にそれぞれの遺跡の出土遺物から見た年代を中心として、遺跡の状況を確認していきたい。また、平成17年度に行われた宮内館跡の確認調査において出土した遺物についても考慮に入れて考察していきたい(長岡市教育委員会 2006)。

1 宮内鶴田遺跡

宮内鶴田遺跡は今回の調査では遺物も数点の出土で、そのすべてが小破片であったため、年代を測定するに適当な資料はなかった。ただし、平成17年度に行われた確認調査では今回調査のA区内より須恵器製の無台壺や長頸瓶などの底部が出土したおり、それらは9世紀初頭の佐渡小泊窯産と見られるものである。確認調査時のその他の出土遺物もこれらの時代を中心とした包含層であったことは間違いないが、珠洲焼の大甕胴部片も出土しており、9世紀初頭の遺跡でありながら、周囲の異なる時代の遺跡からの遺物流入も少量あった地点と考えられる。

以上のように、宮内鶴田遺跡は9世紀初頭の活動が見られる遺跡で、河川跡周辺から溝が検出されていることから河川を利用した活動が考えられる遺跡である。なお、同地にあったとされる宮内館跡は土地更正図から今回の調査地付近を北端として、その南側に広がっていると考えられる。現在も中之島宮内集落が南に広がることも考え合わせれば、その方向に微高地などが広がっており、宮内鶴田遺跡の中心も南に存在している可能性が高い。

2 長呂遺跡

長呂遺跡では5、6、9、10、23など須恵器の無台壺が出土した。これらの無台壺は佐渡小泊窯産の須恵器で9世紀前半に位置するものと見られる。平成17年度の確認調査において出土した須恵器無台壺も同様であり、底面が回転ヘラ切り痕を残すことが共通している。これらの無台壺以外の須恵器も佐渡小泊窯産がほとんどと見られ、その他の産地のものは少ないようである。8のような接地面が方形をなす長頸瓶の高台部は佐渡小泊窯跡群のうち江の下窯跡からも出土しており、また17のような外端接地の高台も同じく江の下窯跡より出土している(佐渡市教育委員会 2005)。さらに17の外端接地の高台は長岡市下屋敷遺跡でも出土しており、無台壺も底径と口径の大きさがそれぞれの遺跡で似通っていることから、同じ時代の遺物の可能性がある(長岡市 1992)。他に須恵器としては大甕の胴部片が出土しているが、年代を決定できる資料ではなかった。

土師器は主に壺、壺が出土している。壺は全体がわかるものは18のみであるが、他にも底部片は数点出土している。特に19のような内面が黒色処理された壺の破片が複数出土している。これは、9世紀初めに佐渡小泊窯産の食膳具が増加し土師器の量が減少するが、9世紀後半から依然佐渡小泊窯産須恵器が相当量見られるものの土師器も他の地域と比べて比率が高くなり、さらに南蒲原地域などで黒色処理された土器が定量出土することと合致する(春日 1999)。壺については小壺である2は口縁部形態が受口状となっており、同様のものと見られる遺物が見附市上田遺跡においても出土している(見附市教育委員会 2005)。24のような口縁がくの字状をし、縁部が肥厚するものも出土しており、近い年代の遺物と思われる。

以上のことから長呂遺跡は9世紀全般にわたって活動した遺跡と見られるが、43のような15世紀の珠

陶焼の擂鉢も出土しており河川に近い低湿地地帯のため、周辺からいくらかの混入もあったと見られ、特に遺構からの遺物が9世紀前半のものであることから、活動の中心はこの時期におかれていったと考えられ、9世紀後半ごろ廃棄されたものと見られる。

3 上狐興野遺跡

44の須恵器は口縁端面が内側に傾斜し浅く凹むことや受部の形態から、いわゆる須恵器編年のMT15の時期の所産と見られる。周辺でこの時期の遺跡として見附市貴船休場遺跡があり(見附市教育委員会2006)、また品田高志(品田 1990, 1992)と川村浩司(川村 2000)が同時代の考察を行っていることからこれらを参照に他の遺物についても見ていきたい。45のような品田編年のE類や62のような同編年のF類となるものもあり、品田編年のIV期、川村編年の12から16の段階に収まるものと見られる。ただし、この時期の壺は腹部がくの字状に屈曲するものであるのに対して、58の壺は口縁端部がつまみ上げられており、この時代に收まりきらない可能性がある。これは他の2遺跡と同様後世からの流入と考えられ、それを証明するかのように51や53の中世遺物も同地層から出土している。

4まとめ

以上のように、宮内鶴田遺跡が9世紀初頭、長呂遺跡が9世紀全般、上狐興野遺跡がMT15期の前後である6~7世紀の遺跡と見られる。ただし、どの遺跡からも中世の土器片や異なる時代の土器片が少量見つかっており、このことからあまり人の生活痕跡がないと見られていた低湿地帯においても、大きな遺跡とはならないと思われるが、遺跡が存在しており、現在の中之島宮内、長呂、並木新田周辺においてもいまだ見つかっていない各時代の遺跡が存在している可能性がある。

<引用・参考文献>

- 春日真実 1999 「第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相-関川右岸下流域を中心に-」『上越市史研究第5号』
- 小林徳 2001 「中之島町中条地区出土の土師器について」『越佐補遺些』第6号
- 佐渡市教育委員会 2005 「小泊窯跡群！」
- 品田高志 1990 「越後ににおける古墳時代土器の変遷-柏崎平野の中期～後期を中心に-」『柏崎市立博物館館報 No.4』
- 品田高志 1992 「越後ににおける古墳時代土器の変遷II-前期土器編年の現状と編年試案-」『柏崎市立博物館館報 No.6』
- 長岡市 1992 「長岡市史 資料編I 考古」
- 長岡市教育委員会 2006 「平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書」
- 中之島町 1988 「中之島村史 上巻」
- 中之島町教育委員会 1995 「観音寺遺跡」
- 中之島町教育委員会 1999 「高畠遺跡」
- 新潟県教育委員会 1976 「北陸高速自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 烧屋敷遺跡 杉之森遺跡」
- 見附市教育委員会 2005 「県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II 上田遺跡」
- 見附市教育委員会 2006 「県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III 貴船休場遺跡II」

遺物觀察表

(宮内鶴田遺跡)

番号	種別	器種	出土 マップ	遺構	法量(cm)			粘土	備考
					口径	厚さ	底径		
1	須恵器	大甕	A区9					白	

(追加箇所)

番号	種別	器種	出土 マップ	遺構	法量(cm)			粘土	備考
					口径	厚さ	底径		
2	土師器	小型甕		P1	13.0			石英、長石、白	
3	土師器	無台环		P1			6.0	石英、白	
4	須恵器	甕		P1				石英	
5	須恵器	馬台环		P2	12.5			石英、白	
6	須恵器	無台环		SK2	12.8	3.2	7.0	白、雜色、黒	
7	土師器	甕	7					石英、長石、赤	
8	須恵器	長頭瓶	4				9.2	白、小石	
9	須恵器	無台环	4				7.2	長石、白	
10	須恵器	馬台环	4		12.0			白	
11	土師器	环	4				4.0	石英、長石、白	
12	土師器	甕	4					石英、長石、白	
13	土師器	甕	4					石英、長石、白	
14	土師器	甕	4					石英、長石、白	
15	土師器	甕	4					石英、長石、白	
16	土師器	甕	4					石英、長石	
17	須恵器	長頭瓶	5				10.0	白、黒	
18	土師器	环	5		12.3	3.4	5.5	長石、白、赤	
19	土師器	环	5				6.8	石英、白	内面黒色處理
20	土師器	环	5				5.8	長石	
21	土師器	甕	5					石英	
22	土師器	环	5				4.8	石英、長石	
23	須恵器	馬台环	6		12.6	3.2	6.8	白、黒、小石	
24	土師器	長頭甕	6		20.8			石英、白	
25	土師器	甕	6					石英、長石	
26	土師器	甕	6					石英、白	
27	土師器	甕	6					石英、長石	
28	土師器	甕	6					石英、長石	
29	土師器	甕	6					石英、白	
30	土師器	甕	6					石英、白	
31	土師器	甕	6					石英	
32	土師器	甕	6					石英、長石	
33	土師器	甕	6					石英、長石	
34	土師器	長脚甕	6					石英、長石、青母	
35	須恵器	甕	6					青	
36	土師器	甕	6					白	
37	土師器	甕	6					石英、白	
38	土師器	甕	6					石英、長石	
39	土師器	甕	7					石英、白	
40	土師器	甕	7					石英、赤	
41	土師器	甕	8		17.6			石英、赤	
42	須汎燒	擂鉢						石英、白	
43								白	

(上段與野遺跡)

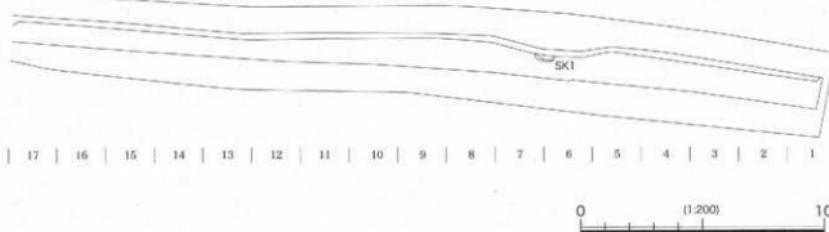
番号	種別	器種	出土 マップ	遺構	法量(cm)			粘土	備考
					口径	厚さ	底径		
44	須恵器	环	1		12.0			石英、白	
45	土師器	器台	1				7.6	鐵石、白	外側赤錆
46	土師器	环	2		13.2			鐵石、黒	内面黒色處理
47	土師器	高环	3				10.4	石英、白、小石	内面黒色處理
48	須恵器	甕	3					白	
49	土師器	甕	3					石英、長石	
50	土師器	甕	3					石英、長石、小石	
51	瓦器系	4						白	
52	土師器	脚部	6				8.0	石英	
53	須汎燒	擂鉢	6					白	
54	須恵器	馬台环	7		12.4			白、黒	
55	土師器	甕	7					石英	
56	土師器	甕	12				4.0	石英	
57	土師器	鉢	13		16.0			石英	
58	土師器	甕	16		21.0			石英、赤	
59	土師器	甕	16					石英、長石	
60	土師器	甕	16					石英、長石、小石	
61	土師器	脚部	18				8.0	石英、白	内面黒色處理
62	土師器	环			14.6				

図 版

A区



B区

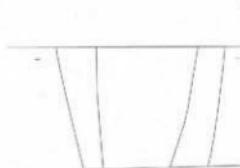


SD1



1 緩灰色粘土層。しまり、塑性とも中。
青灰熱粘土ブロックを含む。

SD2



1 緩灰色粘土層。しまりは強。塑性は中。

SD3



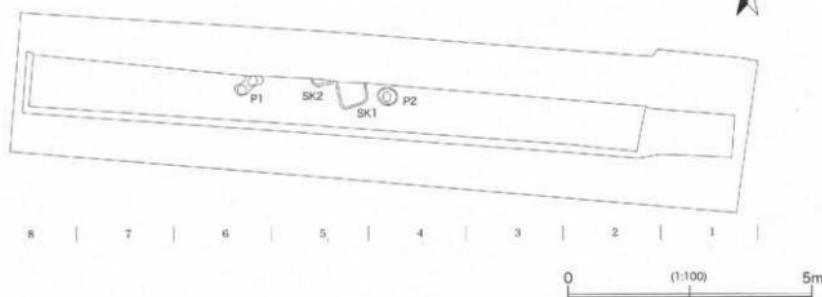
1 緩灰色粘土層。しまりは強。塑性は中。

SK1

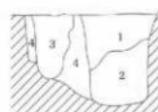
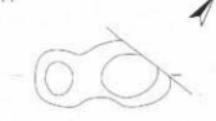


1 緩灰色粘土層。しまりは強。塑性は弱。
黄褐色ブロック中量、炭化物をごく微量含む。

0 (1:40) 1m

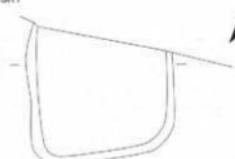


P1



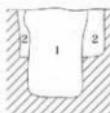
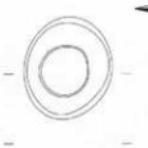
- 1 青灰褐色粘土層。しまりは強。粘性は中。
細粒物質を少許含む。
- 2 青灰褐色粘土層。しまりは強。粘性は強。
- 3 青灰褐色粘土層。しまりは強。粘性は強。
- 4 細灰褐色粘土層。しまりは強。粘性は中。
炭化物を少額含む。

SK1



- 1 緑灰色粘土層。しまりは中。粘性は強。
黒色粘土ブロックを少額含む。
- 2 緑灰色粘土層。しまり、粘性は中。
黄褐色粘土ブロックをごく微量含む。

P2



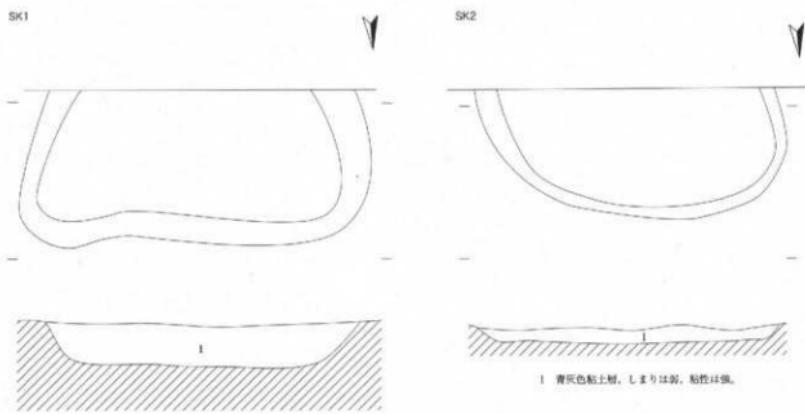
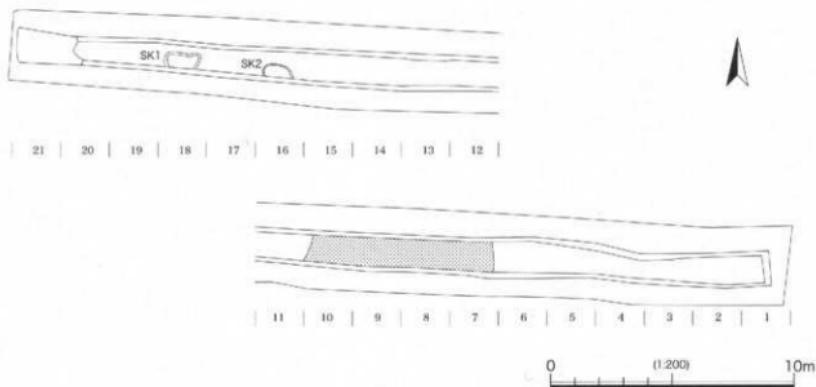
- 1 緑灰色粘土層。しまりは強。粘性は中。
黄褐色ブロックを少額含む。
- 2 青灰褐色粘土層。しまり、粘性は中。
炭化物ブロックを中量含む。

SK2



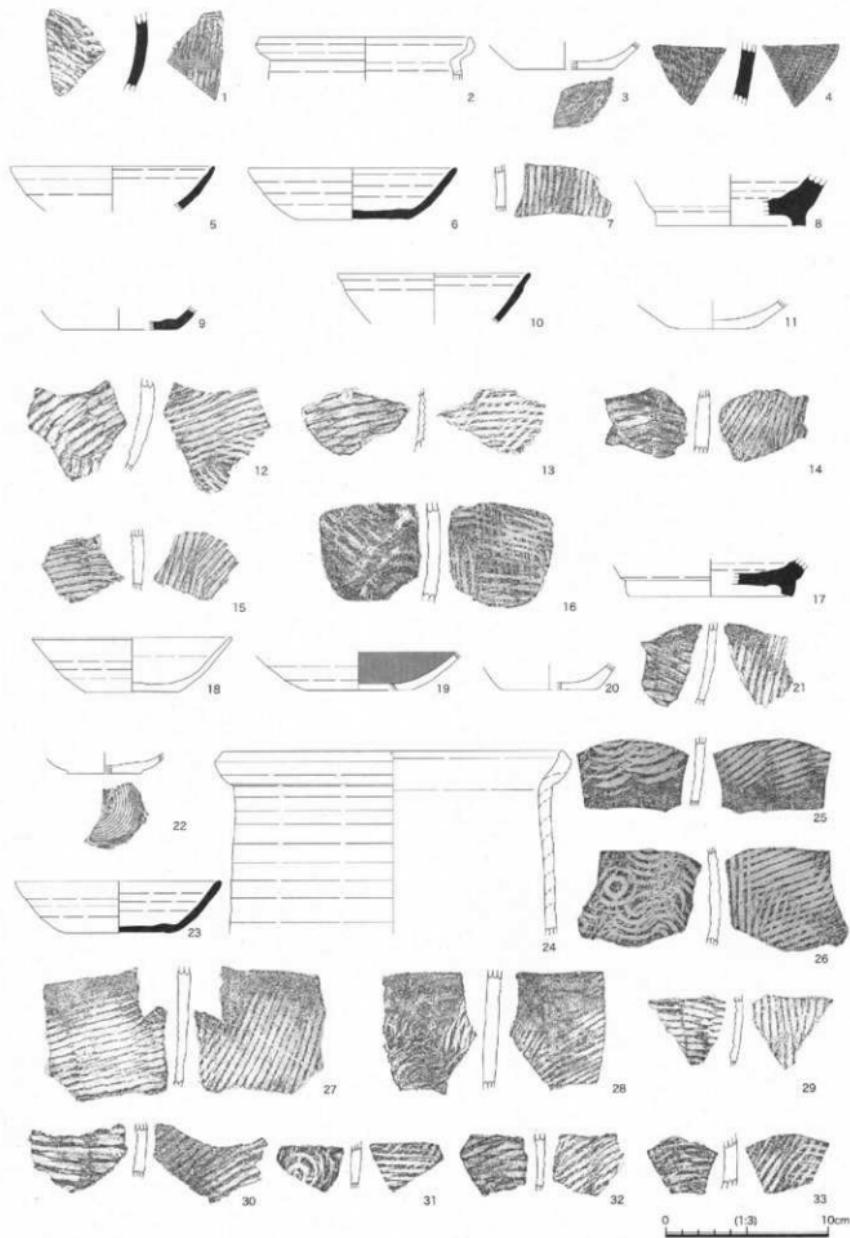
- 1 短緑灰色粘土層。しまり、粘性は強。
- 2 青灰褐色粘土層。しまり。粘性は強。

0 (1:20) 1m

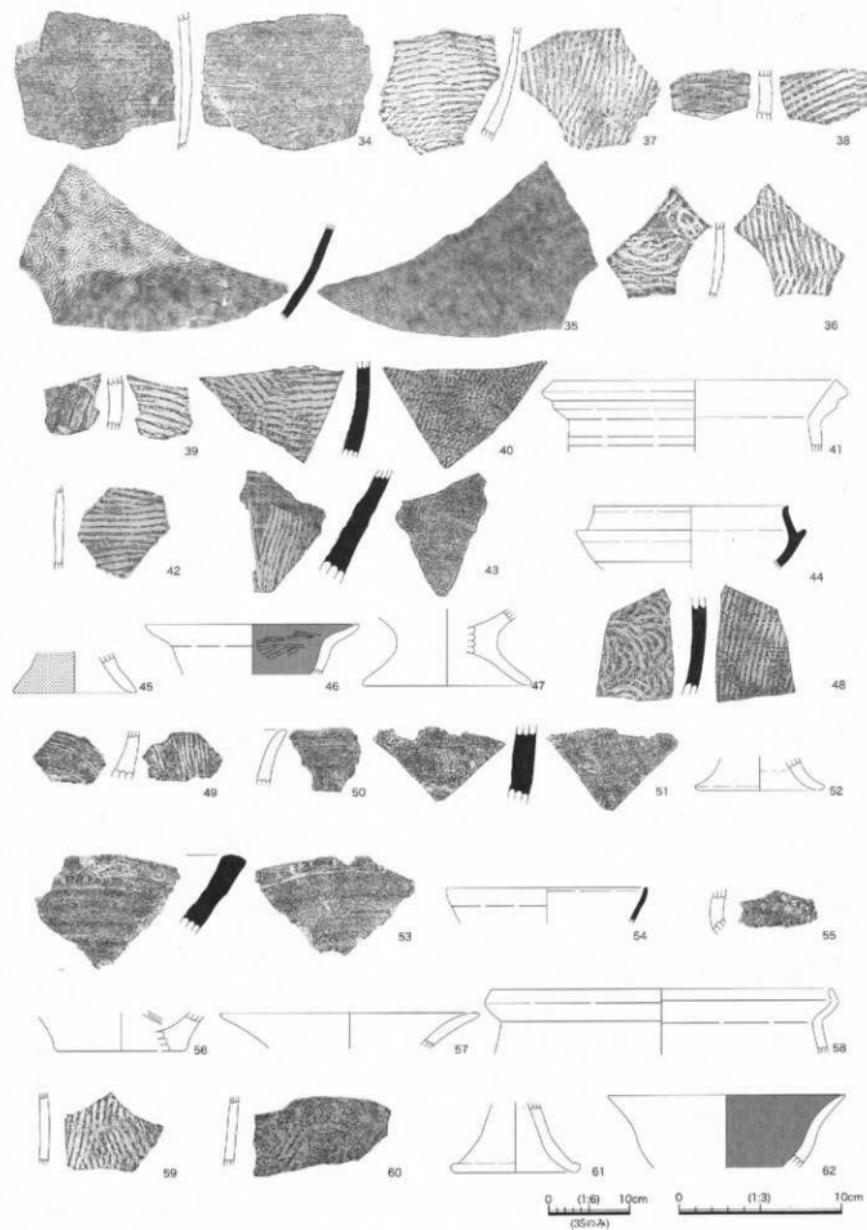


1 青灰色粘土層。しまりは弱。粘性は強。

0 (1:20) 1m



図版5





調査地周辺（北より）



調査地上空写真



調査地周辺



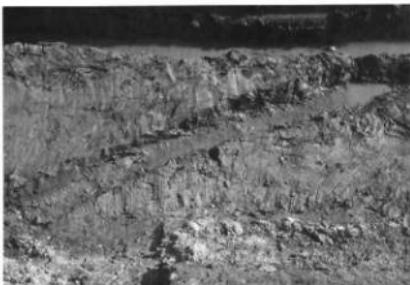
宮内鶴田遺跡A区



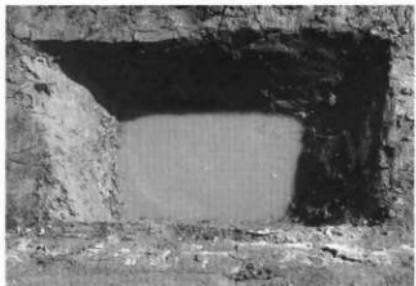
宮内鶴田遺跡B区



宮内鶴田遺跡A区セクション



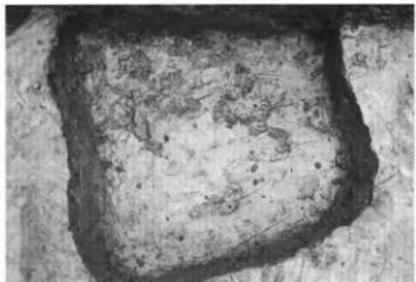
宮内鶴田遺跡SD1



宮内鶴田遺跡SD2



宮内鶴田遺跡SD3



宮内鶴田遺跡SK1



長呂遺跡全景



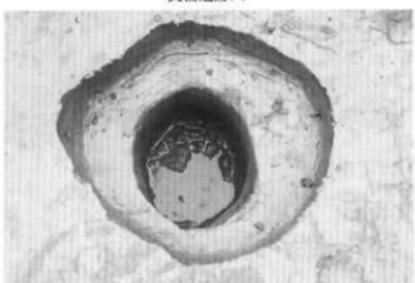
長呂遺跡セクション



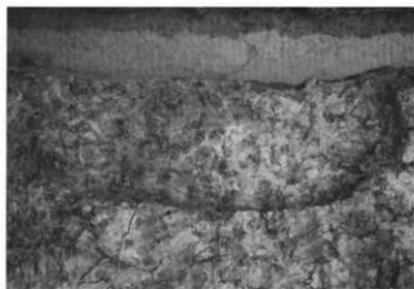
長呂遺跡P1



長呂遺跡P2



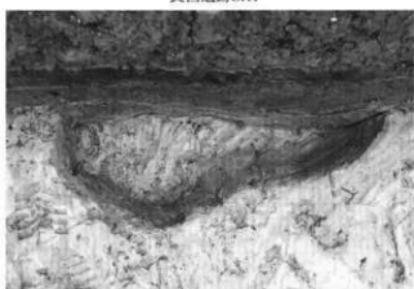
長呂遺跡P2



長呂遺跡SK1



長呂遺跡SK2



長呂遺跡SK2



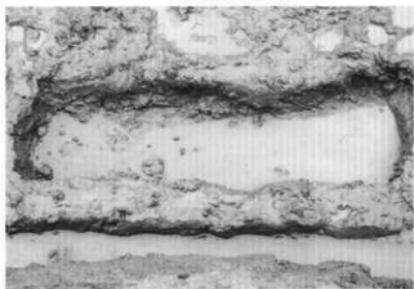
長呂遺跡調査風景



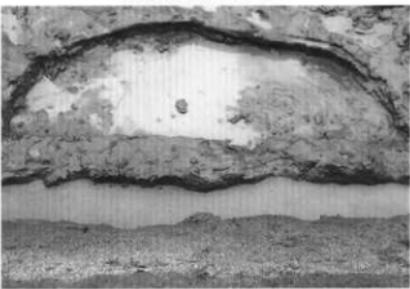
上孤興野遺跡全景



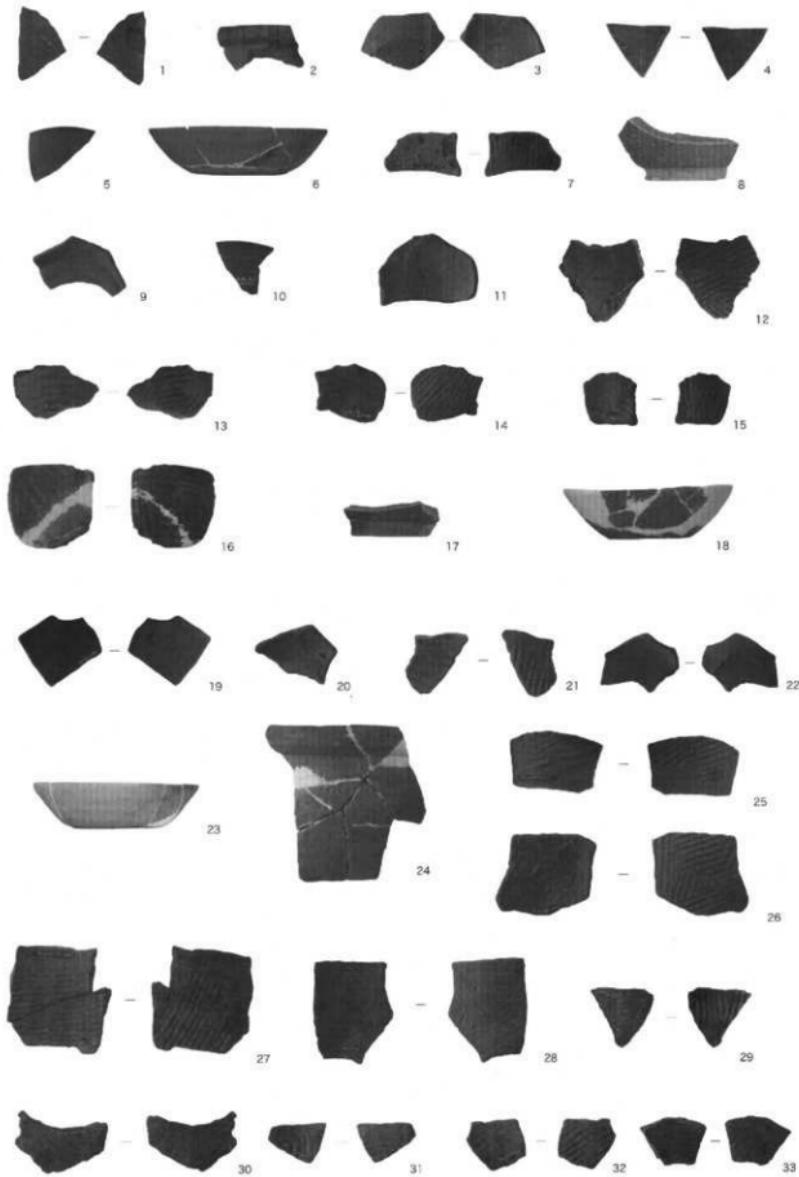
上孤興野遺跡セクション



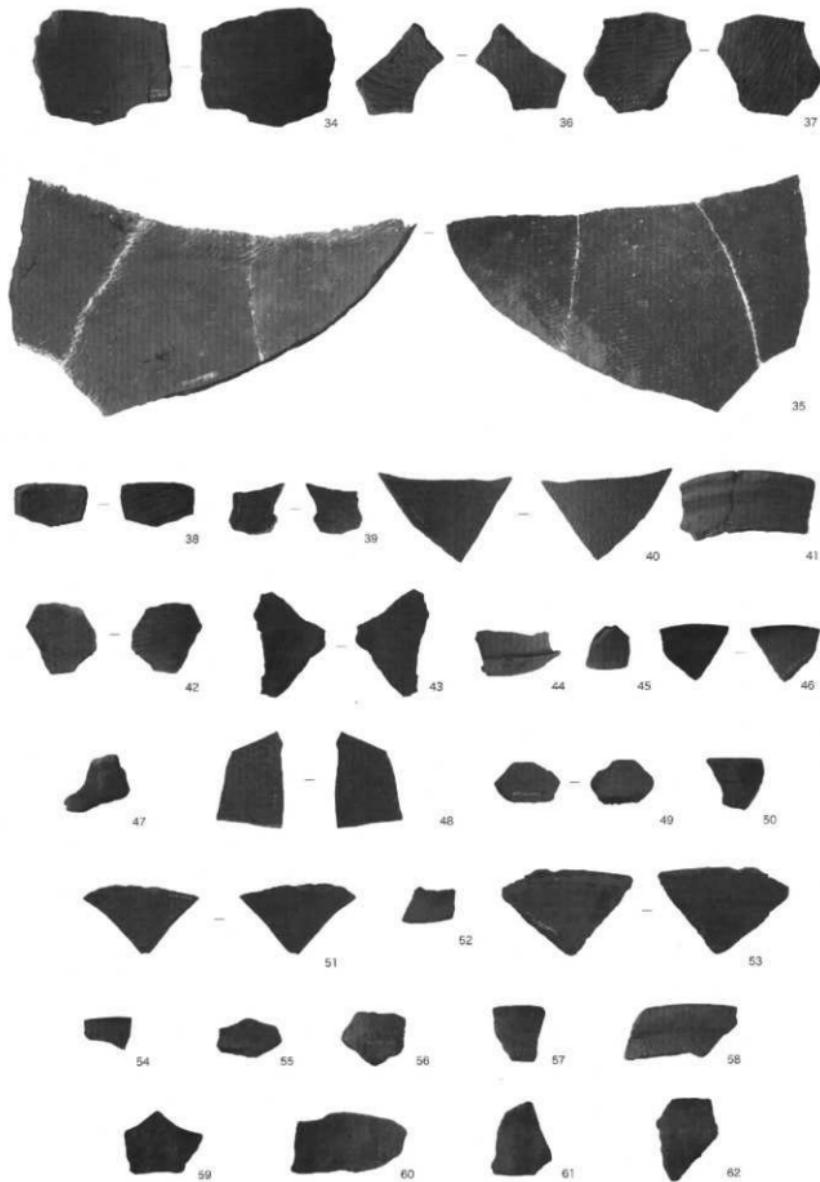
上孤興野遺跡SK1



上孤興野遺跡SK2



写真図版 6



報告書抄録

ふりがな	みやうちかもたいせき ながろいせき かみきつねこうやいせき						
書名	宮内鶴田遺跡 長呂遺跡 上狐興野遺跡						
副書名	県営は場整備事業中之島中部地区に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	小林 徳						
編集機関	新潟県長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2-1 Tel (0258)32-0546						
発行年月日	2007(平成19)年3月5日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡	調査期間	北緯	東経	調査面積	調査原因
宮内鶴田遺跡	長岡市中之島宮内字鶴田	152021 1251	20060828 ～ 20060914	373258	1385009	320 m ²	県営は場整備事業による
長呂遺跡	長岡市長呂宇松野	152021 1253	20060828 ～ 20060914	373242	1385008	60 m ²	県営は場整備事業による
上狐興野遺跡	長岡市上狐興野	152021 1252	20060828 ～ 20060914	373258	1384949	160 m ²	県営は場整備事業による
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備記事項		
宮内鶴田遺跡	散布地	平安時代	溝、土坑	土師器、須恵器			
長呂遺跡	散布地	平安時代	ピット、土坑	土師器、須恵器			
上狐興野遺跡	散布地	古墳時代後期	土坑	土師器、須恵器			

宮内鶴田遺跡 長呂遺跡 上狐興野遺跡

平成19年3月5日印刷

平成19年3月5日発行

発行 新潟県長岡市教育委員会
印刷 株式会社サンワプロセス